

1. カリキュラムポリシー

上智大学短期大学部に入学した者が、本学の学業を修めることにより、建学の精神やディプロマポリシーで定める人材となることができるよう構築された一連のプログラムをカリキュラムポリシーとして明示します。

本学で提供するカリキュラムは、学修の4つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」と到達目標に定義する諸要素を備えています。カリキュラム構成に示すとおり、多様な科目群により複数要素を補完しあう教育プログラムを構築することで、本学が定める要素を十分に修得することができます。

1. カリキュラムエッセンス

英語科では、「キリスト教ヒューマニズム」「英語発信力」「国際性」の《3つの視点》と、「教養力」「言語力」「専門力」の《3つの能力》の2つのカリキュラムエッセンスを尺度に精査された授業やプログラムを提供します。

また、個別の授業を、段階を追った重層的かつ領域横断的なプログラムとして統合・構成することで、国際社会に貢献しうる多様な人材を育成します。

《3つの視点》

(1) キリスト教ヒューマニズム

「人間教育」を掲げる本学は、キリスト教ヒューマニズムという視座から、言語、思想、文学、歴史、社会を考察し、その過程において「人間」への理解を涵養することにより、社会貢献の志を抱く人材を育成します。

(2) 英語発信力

「内容重視 (content based)」「自己発信 (self-expressive)」型の英語教育を通して英語の技能を向上させるとともに、言語の価値と運用の本質的意味を理解し、それを基礎に多様な分野の専門教育と人間形成をします。

(3) 国際性

言語教育を核として、歴史、文化、社会経済、国際情勢、地域福祉等、幅広い分野の専門教育を実施しています。さらに、地域活動の中での国際協力（サービ斯拉ーニング活動）や、短期留学プログラム、そして本学の持つ国際色豊かな教育資源を活用することにより、地域レベルまで国際化が進む社会を実感することができます。

《3つの能力》

(1) 教養力

善悪、美、愛、喜怒哀楽、勇気、胆力、宗教等、人や社会によって異なる信念や価値観を豊かに持つことです。さらに、自己と異なる考えを理解し、共感し、寄り添うことで他者や異文化間のギャップを埋めることができる感性を総じて教養力といいます。

(2) 言語力

異なる性質である「教養力」と「専門力」を媒介し、ヒューマニズムの核となるものが「言語」です。本学では、国際社会の共通言語として広く使われる英語を通して母語にも共通する「言語力」を修得するとともに、幅広い分野の専門知識と深い教養の涵養を目指します。

教養力と専門力そして言語力の3つの力を磨くことにより、上智の建学の精神を具現化できる人材を養成します。

(3) 専門力

すべての学問領域の知識を体系的に理解し、それを論理的に説明する能力です。語学、文学、哲学、修辞学、法律、経済、歴史、自然科学等、論理立てて継承していくことが可能な知識は、全て専門力といえます。

2. カリキュラムの科目群

本学の授業は、「英語科目」「教養科目」「基礎科目」「専門科目」の4つの科目群に分類されています。それぞれの科目分類の定義は以下のとおりです。

・英語科目

英語の各科目では、4技能（読む、書く、聞く、話す）を効果的に修得することができます。また、「英語スキルズ」や「TOEIC対策講座」では、状況や立場等の目的に応じた英語表現を、ペアワークやグループワーク等の実践演習により身につけることができます。

さらに、必修科目である「英語Ⅰ～Ⅳ」の講座では、地球市民として必要な素養を「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神に基づき、段階的に英語で学ぶことで国際社会への興味と理解を深めることができます。

・教養科目

教養科目は、心や感性を培い、多様な視点から物事の本質を理解し、広く社会と人間の本質を理解することを通して社会貢献の志を育むことを主たる目的とした科目群で構成されています。必修科目である本学特有の「人間学」科目では、キリスト教ヒューマニズムの視座をもって様々なテーマを考察し論じることで、高次の人間理解をめざします。この素養を礎として多様な学問や社会事象を考察することにより、それらの背景に隠れた新たな価値を発見し、これを通して自己認識・自己規定の新たな意味づけにつなげることができるはずです。

また、人間学以外の本科目群においても人間理解に着目し、とくに人間の行動を広義に理解することや考察の切り口となりうる科目分類と授業内容の精査を行っています。

・基礎科目

本学が定めるコース（下記4．コース制度参照）の4領域のテーマを学ぶにあたり、前提となる知識や分野についての導入科目となりうる科目群を基礎科目として配置しています。

また、言語系の科目配置では、意思疎通の手段の幅を広げるだけでなく、複数言語に触れることで社会の多様性や共通性への感受・認識へと展開していくことを目的としています。

・専門科目

本学が定めるコース（下記4．コース制度参照）の4領域のテーマに沿って得られた多様な知識を複合的に展開していくために必要な知識・分野を専門科目として配置しています。

また、セメスターごとに段階を踏む「ゼミナール」科目（下記5．ゼミナール制度参照）では、アカデミックスキルの向上とともに、実社会でも通用しうる実践的な社会人基礎力を総合的に学び向上させることができます。

3. カリキュラム構成（標準配当）

標準配当表および開講科目表を参照してください。

4. コース制度

本学では、4つの学修コースを設けており、個々の学生が領域のテーマを探究するにあたって順序立てて学ぶ指標を示しています。コースを学修することで、それを軸とした考察視点を養うことができます。

（1）異文化理解コース

さまざまな国の文化や社会、考え方などについて学ぶコースです。

歴史学、教育学、法学といったさまざまな学問分野の視点から、日本や諸外国の制度や考え方を見ることによって、文化を複眼的に理解することができます。

（2）英米文学研究コース

英語圏の文学を通して様々な表現手法や思想等について学ぶコースです。

詩、劇、小説といったジャンル別に、愛、モラル、宗教などのテーマがどのように表現されているかを学ぶことによって、英語圏の文芸文化への理解を深めます。

（3）言語研究コース

ことばのしくみや使い方、バリエーション等について学ぶコースです。

英語と日本語の音、語、文、意味といった異なるレベルでの構造、会話の仕組み、ことばのバリエーション、ことばの修得、言語教育等について学ぶことによって、生きた言語への理解を深めることができます。

(4) 言語教育コース

理論と実践の双方向から、効果的に言語教育を行う力を養います。

こどもたちへの英語の教え方と、日本語を母語としない人たちへの日本語の教え方を理論と実践の両面から学ぶコースです。言語の修得、こどもの心理や発達、言語教育等に関する理論を学び、その知識を基に模擬授業を行うことによって、効果的な言語教育を行う力をつけることができます。

5. ゼミナール制度

本学では、4学期つまり4セメスター（2年間）で段階を踏んだゼミナール講座を設けています。

- (1) 第1セメスターに開講する「基礎ゼミナール」では、大学で学ぶにあたっての導入教育とともにキャリアパス設計に必要な演習等を行います。
- (2) 第2セメスターでは、「プレ・ゼミナール」を開講し、自身の研究テーマを設定し、それに基づく討議・演習を通して、研究手法や自己表現方法、論理構築手順等を学ぶことができます。
- (3) 第3セメスターと第4セメスターに開講される「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」では、自身のテーマをより深く研究していく過程で、情報収集や分析の手法、問題提起、論理構築、領域横断的視点、自己発信力等の素養を統合的に得ることができます。

6. インデペンデント・スタディ

指導教員の下、学生が独自に設定したテーマについて、主体的に調査・考察した成果を研究報告書としてまとめ、発表を行う自主的総合学修です。本プログラムは任意履修となりますが、ゼミナールやコース制度等で学んだテーマをさらに拡大・展開させたり、新たな智の領域に挑戦したいという学生の積極的な学修・研究意欲に発展的に応えるものです。

7. キャリア形成支援プログラム

本プログラムは、学生の多様な進路希望を後押しすることを目的とし、キャリアパスや就職、編入学に関するガイダンス、専門カウンセラーによる個別指導等の正課および支援プログラムが多面的に組み込まれています。これらのプログラムに主体的に参加することにより、社会基礎力としての内面的な成長とともに、編入学や就職等における実践的な知識を得ることができます。

8. 上智大学科目等履修制度の導入による単位認定制度

9学部29学科を擁する上智大学（4年制）で全学に開講されている科目を、本学の学生が履修することができる制度です。この制度では、セメスターごとに6単位、最大12単位を上限に履修することができます。修得した上智大学の単位は本学の単位として認定することができます。

この制度を活用することにより、本学で開講されていない領域や、多様な専門的学問領域をより深く探求することができます。また、この制度は、学修機会の拡充だけでなく、上智大学の学生・教職員とのふれあいの機会を相互に広げていくことも目的としています。

9. 短期留学プログラム

本学では、「海外短期語学講座」として短期留学プログラムを提供しています。本プログラムの参加者は、事前に「留学準備」科目を修め、派遣先の学校で所定の条件を満たすことにより4単位（「留学準備」2単位、「短期留学プログラム」2単位）を取得することができます。

「留学準備」科目では、本プログラムに参加する目的や、その経験をどのように活かしていくかを明確にしていくことで、学修効果を向上させることができます。また、各種ガイダンスやロールプレイ等により、留学先の文化や海外生活で必要となる知識、危機管理方法等を学ぶことができます。

さらに、参加者は、出発前と帰国後にTOEIC-IP（有料）を受験することで、留学による語学力向上の成果を客観指標で計ることができます。

カリキュラム マップ

3 つの視点

1

キリスト教
ヒューマニズム

「人間教育」を掲げる本学は、キリスト教ヒューマニズムという視座から、言語、思想、文学、歴史、社会を考察し、その過程において「人間」への理解を涵養することにより、社会貢献の志を抱く人材を育成します。

2

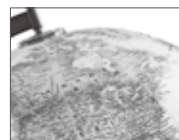
英語発信力



「内容重視(content based)」「自己発信(self-expressive)」型の英語教育を通して英語の技能を向上させるとともに、言語の価値と運用の本質的意味を理解し、それを基礎に多様な分野の専門教育と人間形成をします。

3

国際性



言語教育を核として、歴史、文化、社会経済、国際情勢、地域福祉等、幅広い分野の専門教育を実施しています。さらに、地域活動の中での国際協力(サービスマーケティング活動)や、短期留学プログラム、そして本学の持つ国際色豊かな教育資源を活用することにより、地域レベルまで国際化が進む社会を実感することができます。

3 つの能力

1 教養力

善悪、美、愛、喜怒哀楽、勇気、胆力、宗教等、人や社会によって異なる信念や価値観を豊かに持つことです。さらに、自己と異なる考えを理解し、共感し、寄り添うことで他者と異文化間のギャップを埋めることができる感性を総じて教養力といいます。

2 言語力

異なる性質である「教養力」と「専門力」を媒介し、ヒューマニズムの核となるものが「言語」です。本学では、国際社会の共通言語として広く使われる英語を通して母語にも共通する「言語力」を修得するとともに、幅広い分野の専門知識と深い教養の涵養を目指します。

3 専門力

すべての学問領域の知識を体系的に理解し、それを論理的に説明する能力です。語学、文学、哲学、修辭学、法律、経済、歴史、自然科学等、論理立てて継承していくことが可能な知識は、全て専門力といえます。

履修の流れ

教養科目群

多様な視点から広く社会と人間の本質を理解することを通して心や感性を培い、社会貢献の志を育むことができます。

人間学Ⅰ

人間学Ⅱ

教養科目

英語科目群

国際共通語としての英語を実践を通じて学び、コミュニケーション能力を育み、グローバル社会への興味と理解を深めることができます。

英語Ⅰ

英語Ⅱ

英語Ⅲ

英語Ⅳ

英語スキルズ

TOEIC
対策講座ⅠTOEIC
対策講座Ⅱ

基礎・専門科目群

アカデミックスキルの確立、社会人基礎力の向上と併せ、多様なテーマ、領域の知識を複合的かつ段階的に学ぶことができます。

基礎
ゼミナールプレ・
ゼミナール

ゼミナールⅠ

ゼミナールⅡ

基礎科目

異文化理解コース科目群

英米文学研究コース科目群

言語研究コース科目群

言語教育コース科目群

専門科目

インデペンデント・スタディ

1 年 生
2 年 生第一セメスター
(準備期)第二セメスター
(発展期)第三セメスター
(応用期)第四セメスター
(完成期)

3. 英語科で得る学びとカリキュラムの特徴

本学での学びには明確な目的があります。学生の皆さんを国際社会で活躍し、多文化共生社会の実現に寄与できる女性として育てることです。このため、英語科目で十分な英語力を身につけ、教養・専門科目でそれぞれの関心のある学問分野での学びを深め、サービslラーニング活動やその他の課外活動でその学びを実践するのです。56 ページにあるカリキュラムマップをごらんください。

2 年間の 4 つの学期を準備期、発展期、応用期、完成期と位置づけ、準備期のはじめと発展期・応用期・完成期のおわりに TOEIC-IP 試験を学内で受けて英語の学修成果を測定します。

学修成果は英語検定試験のような外部試験だけではなく、学生の主観によってもはかられます。そのため、各学期に専任教員によるゼミナールが必修科目として設定され、その担当教員がアドバイザーとなります。学期ごとに学生はアドバイザーの指導のもとで卒業後の進路を考え、その実現のために必要な科目を選んで学び、あるいはサービslラーニング活動やさまざまな課外活動に参加して、積極的に社会や他者と関わり、奉仕し、協働することで社会人基礎力を高めます。その学修成果を、学期はじめとおわりに学修ポートフォリオに学生が自分で記入します。これは自分が学期はじめにたてた目標をどのくらいクリアできたか、どんな科目から何を学んだかを学生が自分の言葉で記入し成長の過程を記録するものです。このポートフォリオと成績表をもって次の学期はじめにアドバイザーと面談し、卒業後の進路を考えて次の学期の目標をたてていくのです。

本学のカリキュラムの科目群は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから、英語の勉強だけをするものだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。それでは、「英語を学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

言葉というものは、相手に何かを伝える、あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。

「英語を学ぶ」と言っても、学んだ英語で相手に「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という中身がなくては、本当の意味での「英語を使える」人間にはなれません。しかも、母語とは異なる言語を使う相手に、何かを伝えて理解してもらうこと、逆に相手のいうことを理解することは、とても大変なことなのです。単に文法や語彙が違うから、という問題ではありません。「異文化コミュニケーション」という言葉が示すように、異なる言語の使い手、つまり異なる文化の人々とコミュニケーションを行うためには、相手の文化や社会についても知る必要があります。

入学後、まず教養科目を履修することで視野を広げ、体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。皆さんの多くにとっての母語は日本語でしょう。まず日本語でものを論理的に考え、説明する力を養うことが、英語を使いこなすためにも不可欠なのです。そのため、日本語で必要な情報を集め、論理的に整理して口頭で発表したり小論文を書いたりするためのアカデミック・スキルズを身につける「基礎ゼミナール」を 1 年次春学期に必修科目として受講します。また、同じく 1 年次に受講する必修科目の「人間学Ⅰ」では、本学の教育理念である Men and Women for Others, with Others (他者のために、他者ととともに) を実現するための学びがあります。

こうしてしっかりと基礎となる土台を作りながら、英語を学びます。英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんし、英語だけでなくすべての授業への無遅刻・無欠席が当たり前です。しかし、英語力は授業だけでは決して身につけません。各授業の予習・復習、課題などをしっかりこなす自宅学修が必須です。さらに学内ではパソコンを使った e-learning システム等、授業外で英語を学ぶさまざまな機会が提供されています。また、学生の皆さんは TOEIC の目標値を決めてその達成に努めてください。教員もそれを支援していきます。英語力を身につけるためには、こつこつと積み重ねる毎日の努力と、英語を使い英語により多く触れる自主性が鍵となります。

また、本学では英語力を身につける授業は英語科目に限定されているわけではありません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で行われています。それらの授業では、講義を英語で聞き、英語のテキストや資料を読み、英語で議論して、英語でレポートを書く、というように実際に英語を使って専門的なことを学んでいきます。泳ぎ方をいくら言葉で教わっても、実際に水に入ってみなければ泳げるようにはならないのと同様に、英語についていくら学んでも、自分が持っている知識を十分に活用しながら実際に英語を使ってみなければ、英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目は、「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」という領域に括られており、それぞれの分野の入門的な「概論」と「各論」にあたる個々の講義が提供されています。全体像をまず把握してから個別のテーマを扱う「各論」に入るほうが理解を深めることができるので、「概論」は第二外国語などととともに、専門科目のなかの基礎科目として位置付けられています。ある領域に興味がある場合は、その領域の科目を集中して履修して卒業時に「コース修了証」を得ることもできますし、領域にこだわらずに自分の関心にしががっているいろいろな分野の科目を履修することもできます。

こうした学内での学びを、児童英語教育ボランティアや日本語教育支援ボランティアなどの地域活動に活かし、学外でのこうしたボランティア体験をさらに学びにフィードバックする活動が活発に行われています。こうした奉仕の体験を学びに活かす活動を、サービslラーニング活動といいます。サービslラーニング活動を通して、学生の皆さんは学んだことを実践し、他者ととともに生きる市民社会の一員として成長する機会を地域社会からいただいているのです。

4. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- (1) 英語科目
 - 必修科目
 - 選択必修科目
 - 選択科目（英語ファンダメンタルズ）
- (2) 教養科目
 - 必修科目（人間学）
 - 選択科目
- (3) 基礎科目
 - 選択科目
- (4) 専門科目
 - 必修科目（基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナール）
 - 選択科目

必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選択して履修できる科目

5. 卒業に必要な科目・最低単位数

2年の修業年限を満たし、次の条件を満たすことにより、本学を卒業する資格が与えられます。

【13年次生以降】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	10	6	2	12	8	28	66
合計	16		14		36		

【12年次生】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	8	28	66
合計	14		16		36		

6. 標準配当表

【13～16年次生】

区分		1 年次・春学期 第 1 セメスター (準備期)		1 年次・秋学期 第 2 セメスター (発展期)		2 年次・春学期 第 3 セメスター (応用期)		2 年次・秋学期 第 4 セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (10単位)	英語Ⅰ TOEIC対策講座Ⅰ	2 1	英語Ⅱ TOEIC対策講座Ⅱ	2 1	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6 単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (2 単位)	人間学Ⅰ	2						
	選 択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選 択 (28単位)	選択科目 (28)							

【12年次生】

【12単位】

区分		1 年次・春学期 第 1 セメスター (準備期)		1 年次・秋学期 第 2 セメスター (発展期)		2 年次・春学期 第 3 セメスター (応用期)		2 年次・秋学期 第 4 セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (8 単位)	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2	英語 IV	2
	選択必修 (6 単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4 単位)	人間学 I	2	人間学 II	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナール I	2	ゼミナール II	2
	選択 (28単位)	選択科目 (28)							

7. ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

ナンバリング基本方針

↓ 科目の分野を表す（任意のアルファベット 3 文字）

AAA 1 1 1

↑ 100の位で科目のレベルを表す

科目レベルは以下の通りとなります。

100番台	初年次教育科目
200番台	学問の基礎的な概念や考え方を理解する科目、もしくは専門教育の基盤となる科目
300番台	専門教育の理解を深める科目、もしくは建学の精神を踏まえ実践する科目

アルファベットによる分野表記と分野名

分野別	分野名
ANT	Anthropology
ART	ART
BUS	Business Management
CHN	Chinese
COM	Computer Studies
ECN	Economics
EDU	Education
ENG	English
FRN	French
GMN	German
HST	History
IDS	Interdisciplinary Studies
INT	International Studies
JPN	Japanese
JRN	Journalism
LAW	Law

分野別	分野名
LIT	Literature
LNG	Linguistics
MTH	Mathematics
MUS	Music
PED	Physical Education
PHL	Philosophy
POL	Political Science
PSY	Psychology
REL	Religious Studies
SCH	Studies in Christian Humanism
SEF	Special Education Fundamentals
SES	Special Education Seminar
SOC	Sociology
SPN	Spanish
SWF	Social Welfare
GCR	Coexistence and world-Human rights and peace

8. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

履修できる単位数の上限は1学期につき**24単位**です。

(2) 同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっても同じ科目名であれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は、もう一度履修することができます。

(例)「基礎英語スキルズ (リーディング)」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合、秋学期は履修できません。

- 下記の科目は科目名が異なりますが、同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合、重複履修はできませんので注意してください。

【12年次生以前】

2012年度以前開講科目名	2013年度以降開講科目名
東洋研究A	東洋研究
東洋研究B	東洋研究

(3) 人数制限科目

人数制限科目とは、履修する定員数が定められている科目のことです。開講科目表の備考欄に【〇〇名】という形で定員数が記載されています。

人数制限科目の履修希望者は、各学期の人数制限科目登録期間にLoyolaでエントリーを行う必要があります。

なお、抽選はコンピュータにより行われ、当選者のみ自動的に履修登録されます。人数制限科目に当選した場合、当選した科目を削除することはできません。ただし、必修科目を除き履修中止期間に履修中止を行う事ができます。

(4) 必修科目のクラス指定、ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修してください。1年次秋学期必修のプレ・ゼミナールとともに、2年次必修のゼミの選択・登録については1年次中に始まりますので掲示等に注意してください。

(5) TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ (13年次生以降)

2013年度より「TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)が1年次必修科目として開講されました。対象は13年次生以降の学生となります。12年次生以前の学生は履修できません。この科目の履修者は春学期末(7月)および秋学期末(1月)に行われるTOEIC-IP試験を受けることが単位の取得要件となっています。

(6) 英語スキルズ科目

原則として各学期に1科目までの履修とします。レベルは基礎、標準、上級に分かれているので、自分のレベルに合った科目を履修してください。

基礎英語スキルズ……TOEICのスコアが300点以下を目安とします。

標準英語スキルズ……TOEICのスコアが300～500点程度を目安とします。

上級英語スキルズ……TOEICのスコアが500点以上を目安とします。

(7) 英語ファンダメンタルズ

同科目は、本学の教育課程において効果的に学修を進めるために必要な英語力を十分に身につけていない学生を対象に、学修支援を行うことを目的とし設けられています。この科目の開講趣旨に基づき、1年次春学期の必修科目の「英語Ⅰ」(シラバスの特記事項にその旨記載されているクラスのみ)で学期末評価がFとなった学生は、全員この科目の履修が義務付けられます。履修対象者は、この科目でPassの評価を受けることが卒業要件として付加されます。ただしこの科目による単位付与はありません。詳細はシラバスを参照してください。

(8) 人間学

【13年次生】

「人間学Ⅰ」（2単位）は必修科目です。その他に教養科目の選択科目として教養科目群（人間学Ⅱを含む）から12単位を修得してください。

【12年次生】

「人間学Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」は必修です。必修科目の人間学Ⅱを未履修の場合、または不合格であった場合は、2016年度開講されている選択科目から人間学Ⅱを履修してください。これを必修科目扱いとします。

なお、人間学Ⅱを除く教養科目の選択科目として12単位以上を修得してください。

【全学生対象】

Nampet講師担当の「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」を履修する場合は、TOEIC 400点以上取得していることが必要です。

(9) 教養科目の「体育理論（ウエルネスと身体）」、「体育（球技1）」、「体育（球技2）」、「体育（体操）」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。ただし、同一科目の重複履修はできません。

（例）春学期に「体育（球技1）」の単位を修得済の場合、秋学期の「体育（球技1）」は履修できません（体育理論（ウエルネスと身体）、体育（球技2）、体育（体操）は履修可能）。

【13年次生以前】

13年次以前に開講されていた体育理論・実技1、2、3を修得した学生は、それを含め、体育科目は卒業要件単位として4単位まで算入されますので注意してください。

(10) 外国語科目

基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。同一言語を4単位、または異なる言語をそれぞれ2単位ずつ4単位とすることができます。

(11) 他の科目の履修が前提となる科目

- ・児童英語教育演習A、児童英語教育演習B……履修するには、児童英語教育概説、児童英語指導者養成講座、第二言語習得のいずれかの単位を修得済であることが必要です。
- ・日本語教育演習……履修するには、日本語教育概論の単位を修得済であることが必要です。
- ・各外国語科目Ⅱ……履修するには、各外国語科目Ⅰの単位を修得済である、もしくはそれに相当する知識が必要です。

(12) 履修希望者が極めて少数の場合、開講を中止する場合があります。

9. 基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし、それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの基礎科目（異文化理解：キリスト教文化入門または異文化間コミュニケーション、英米文学研究：英文学概論、言語研究：言語学概論、言語教育：児童英語教育概説または日本語教育概論）4単位＋そのコースの関連科目を16単位以上、合計20単位以上修得した場合は、申請に基づき「コース修了証」を発行し、修了コース名を成績証明書に記載します。希望者は、2年次の秋学期の修正登録期間終了までに申請を行います（所定用紙）。

（注）2つのコースどちらにでも算入できる科目を修得した場合、それぞれのコースの修了科目として含めることができます。2コース分の修了証が申請可能な場合は、申請書を2枚提出してください。

<各コースの概要>

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	言語教育コース
さまざまな国の文化や社会、歴史、考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方、バリエーションなどについて学びます。	子どもたちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。

*次ページに各年次生の各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので、自己の目的や興味関心に従って個人の学修計画を立ててください。なお、開講学期や時間割は年度によって変わります。

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【13～16年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	言語とリテラシー教育	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
英語スキルズ	2	教育学	4	日本文化	4	英米史	4
経済学	4	マスメディア論	4	異文化間コミュニケーション	4	東洋研究	4
基礎コンピューター演習	2	中国語Ⅰ	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 8		基礎/専門 14		基礎/専門 18	
基礎/専門 2		基礎/専門 4					

2年間 計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	体育(球技Ⅰ)	2
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	体育理論(ウエルネスと身体)	2	英語史	4
英語スキルズ	2	基礎コンピューター演習	2	フランス語Ⅰ	2	英詩研究	4
宗教学	4	哲学	4	翻訳演習	4	アメリカ文学史	4
歴史学	4	英文学概論	4	イギリスの文化と文学	4		
合計 17 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 18 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		教養 2		教養 2	
基礎/専門 2		基礎/専門 6		基礎/専門 12		基礎/専門 14	

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	マスメディア論	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	音声学	4	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	女性と哲学	4	英語史	4	言語とリテラシー教育	4
心理学	4	言語学概論	4	日本語学	4	社会言語学	4
体育理論(ウエルネスと身体)	2	留学準備(オーストラリア)	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 4		基礎/専門 14		教養 4	
基礎/専門 2		基礎/専門 8				基礎/専門 14	

2年間 計70単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	発達心理学	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	教育学	4	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	哲学	4	児童英語教育演習A	4	児童英語教育演習B	4
体育(体操)	2	社会福祉入門	4	日本語学	4	バイリンガル教育	4
児童英語教育概説	4	ドイツ語Ⅰ	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 4		教養 8		教養 4		基礎/専門 18	
基礎/専門 6		基礎/専門 4		基礎/専門 10			

2年間 計70単位

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【12年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	日本文化	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
経済学	4	社会福祉入門	4	倫理学	4	現代美術	4
異文化間コミュニケーション	4	マスメディア論	4	平和と開発	4	比較・国際教育学	4
合計 16 単位		合計 16 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	10	基礎/専門	14	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	2				

2年間 計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	アメリカ文学史	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論(ウエルネスと身体)	2	英米史	4
教育学	4	体育理論(実技2)	2	フランス語Ⅱ	2	英詩研究	4
歴史学	4	フランス語Ⅰ	2	翻訳演習	4	イギリスの文化と文学	4
		英文学概論	4	英語史	4		
合計 16 単位		合計 16 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	10	教養	4	教養	2	基礎/専門	18
基礎/専門	2	基礎/専門	8	基礎/専門	12		

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	音声学	4	バイリンガル教育	4
言語学概論	4	哲学	4	英語史	4	社会言語学	4
宗教学	4	社会学	4	日本語学	4	異文化間コミュニケーション	4
		ドイツ語Ⅰ	2				
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	10	基礎/専門	14	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	4				

2年間 計72単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	発達心理学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論(ウエルネスと身体)	2	第二言語習得	4
心理学	4	教育学	4	児童英語教育演習A	4	児童英語教育演習B	4
日本語表現法	4	児童英語教育概説	4	音声学	4	バイリンガル教育	4
		体育理論(実技1)	2	スペイン語Ⅰ	2		
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	8	教養	2	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	6	基礎/専門	12		

2年間 計72単位

10. インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは学生自身が興味を持っているテーマを選び自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門科目として2単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、登録前に承諾を受けます。登録は在学中に1回限りとします。研究テーマについては、登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<登録までの手続>

- ① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長、学科長とともにその計画書を審査します。
*研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で、春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は登録した学期の期間中、定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し、指導をうけてください。
- ② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出してください。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（春学期登録者は7月、秋学期登録者は1月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前で発表した上で、評価されます。
- ③ 履修を中止する場合は、登録した学期の履修中止期間内に行ってください。

11. 3大学合同ペルースタディーツアー

上智大学、南山大学、上智大学短期大学部の3大学合同で開講されるプログラムです。本学が秦野市で実施する日系コミュニティでの学習支援活動と関連付けて、国内3大学の学生をペルーへ派遣し、日系人の出身国を訪問し、中南米やペルーの社会や文化を学ぶと共に、現地日系人コミュニティへの訪問等を通じて、文化背景を異にする人々が共に生きるために必要な多様な視野の獲得と、国際理解の促進を目指します。

事前事後学修および現地での研修を修了し、所定の成果を修めた場合、専門科目として2単位が付与されます。成績評価は「P（合格）」、「X（不合格）」のいずれかで、「P」の場合のみ2単位が付与されます。

単位が付与されるためには、原則として次の3つの条件をすべて満たしていなければなりません。

1. 本学で実施される事前・事後指導に全て出席すること
2. 海外で実施される講座に参加して所定の成果を修めること
3. その他、本学担当教員から指示のあった課題を提出すること

2016年度の予定プログラムは次のとおりです。変更になる場合もあります。その場合はスタディーツアーガイダンス及びLoyola掲示板等によりお知らせします。

<3大学合同ペルースタディーツアー「往還する南米日系人」>

主な研修先 教皇庁立ペルー・カトリック大学、マチュピチュ村 他

実施時期（授業期間）	2017年2月、3月 現地研修のほか、事前・事後指導を実施
申込時期	2016年12月 定員以上の応募があった場合には、書類、面接審査により、参加者を決定します。

12. 上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー（学位授与の方針）と開講科目との関連

「上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー」（学位授与の方針）（P. 14）で明示している具体的に獲得しなければならない能力と、各科目との関連性が最も高いものが記されています。

それぞれの科目を受講することで、どのような学修成果を得られるかが把握できるようにしています。P. 67以降の「開講科目表」では、その関連性を一覧で示していますが、「○」は当該科目の中で修得することができるディプロマポリシーの要素を示しており、その中でも特に重視している項目に「◎」の印が記されています。

13. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

本学の時間割には地域社会における教育支援活動を支援するため、「サービスラーニング枠」が設けられており、学生はその時間を活用して地域社会でのサービスラーニング活動（ボランティア活動）を行うことが奨励されています（P. 16参照）。さらに、本学カリキュラムには、日本語教育と児童英語教育の科目群が置かれ、学生はこれらの科目を履修することで、学問的な裏付けを持って活動に臨むことができます。「日本語学」、「日本語教育概論」、「日本語教育演習」などの科目は外国籍市民を対象とした日本語・教科支援ボランティアに参加する学生が日本語教育についての理論的、体系的知識を得ることが出来るものです。また英語教育ボランティアに参加する学生は「児童英語教育概説」、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」、「第二言語習得」、「児童英語指導者養成講座」などの科目を通して英語教育全体の概観と言語習得理論、英語教育の方法論を学ぶことが出来ます。

本学で得られる資格として、NPO法人小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）「小学校英語準認定指導者資格」の取得が可能です。資格の取得を目指す学生は「児童英語指導者養成講座」の授業に連動した通信講座とワークショップを受講（*費用別途）する必要があります。さらに、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」などの授業を履修し、本学の多様な児童英語教育関連のサービスラーニング活動に参加して指導実践の経験を積むことで、在学中に正資格の取得申請へと繋げることが可能です。

「小学校英語準認定指導者資格」「小学校英語指導者資格」を取得するには

1. 「児童英語指導者養成講座」を履修し、単位を修得する。
併せて通信講座「アルク児童英語教師養成コース」を受講。
（受講料：60,000円＋消費税 上智大学短期大学部特別価格 2015年4月時点税込64,800円）
期限内に通信課題を提出し、所定の成績基準を満たして通信講座を修了する。
2. J-SHINEまたはアルク指定の「小学校英語指導者資格取得研修講座」に参加する。
（2日間集中、受講料：2015年4月時点税込37,000円）
3. アルクを通じてJ-SHINE資格認定の申請を行い、J-SHINEによる審査を受ける。
合格すればこの段階で、指導実践の経験の有無を問わず「小学校英語準認定指導者資格」が取得できる。
4. 上記準認定資格から、さらに正認定資格である「小学校英語指導者資格」の取得を目指す場合、
本学サービスラーニング活動等への参加により、正認定の条件となる小学校の35時間、または
幼児および小学生を対象とした50時間の指導実践経験を得ることが可能である。

※「小学校英語準認定指導者資格」「小学校英語指導者資格」は、NPO法人の資格であり、公的資格である「小学校教員免許」ではありません。詳細は<http://www.j-shine.org/>をご覧ください。

P. 67以降の15. 開講科目表の「SL（サービスラーニング）関連度」項目欄には、本学で開講される科目について、サービスラーニングに関連する内容を授業に取り入れている度合いを A（直接関連がある）、B（関連する領域である、あるいは関連する事例や知識を扱っている）として表示しています。履修の参考にしてください。

14. サービスラーニングとアクティブラーニングとの関連

本学で開講されるサービスラーニング科目（児童英語教育演習科目及び日本語教育と関連したゼミナール科目）そしてそれらに伴う教育ボランティア活動は、アクティブラーニング実践の場としても位置付けられています。上記の科目では、学生は英語教育や外国に繋がる人々を対象とした日本語教育の理論と実践法について教室で学び、それを基に地域社会の教育機関等で教育活動を行い、更にそこで発見した課題を大学に持ち帰り議論するという形が取られ、能動的（Active）な実践と課題解決型の学び（Project Based Learning）が重視されています。学生は地域社会での活動を通し、地域の人々と対話・交流し、社会が直面する言語教育や多文化共生等に係る課題を発見するよう努力します。またそれらの課題について、学内で教員や他の学生と議論を重ね協働的な試みを通して、学びを深めます。また地域社会で得た気付きについて、ICT（Information and Communication Technology）技術を活用して、教員及び他の学生とインターネット上で共有し意見交換を行い、更にそれが教室内での議論を活性化します。また自ら実践した授業活動の様子を収めた映像を学内で共に分析し、LESSONプランや教授法を向上させることもあります。このように学内と地域社会で、教育ボランティアの実践を核とした能動的な学びを通して、言語教授法への理解及び実践力を高め、多文化共生に係る言語、教育、文化、そして社会的課題への理解を深め、同時にコミュニケーション力、社会人基礎力、課題発見・解決力といった汎用的能力（Generic Skills）をも身につけてゆきます。

15. 開講科目表

授業回数……◎＝週2回、○＝週1回、●＝週1回・2時限連続を表しています。

DPとの関連性……英語科ディプロマポリシー（P.14、65参照）で定める6つの能力について、特に重視している科目に◎、関連する科目に○がついています。

SL関連度……サービスラーニング活動（P.16、65、66参照）との関連度をA＝直接関連がある、B＝関連する領域である、あるいは関連する事例や知識を扱っているを表しています。

ナンバ リング	授業科目名	単位			開講期・ 授業回数		履修 年次	担当者	備考	DPとの関連性						SL 関連 度										
		必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)											
英語必修科目																	VI. 講義内容（シラバス）→ P. 79 ～ P. 189									
ENG101	英語Ⅰ	2				◎	1	永野、平野、近藤、 飯田、神谷、 T.Gould、C.Oliver、 狩野、Thomas	クラス指定			○			◎		○	B								
ENG102	英語Ⅱ	2					◎	1	飯田、神谷、 T.Gould、C.Oliver、 岩崎、G.Fredde、 D.Heath、中村、 M.Trazi Williams、柳田	クラス指定			○			◎	○	○	B							
ENG201	英語Ⅲ	2					◎	2	青田、R.Burton、 G.Fredde、J.Hirai、 M.Nepomuceno、下山、 K.Williams、 M.Trazi Williams	クラス指定			○			◎		○	B							
ENG202	英語Ⅳ	2					◎	2	近藤、R.Burton、 J.Hirai、松岡、 M.Nepomuceno、 下山、G.Stewart、 M.Trazi Williams	クラス指定			○			◎	○		B							
ENG111	TOEIC対策講座Ⅰ	1					○	1	M.Andrade、神谷 T.Gould、下山	クラス指定						◎	○									
ENG112	TOEIC対策講座Ⅱ	1						○	1	M.Andrade、T.Gould、 C.Oliver、Thomas、下山	クラス指定						◎	○								
英語選択必修科目（英語スキルズ）																	VI. 講義内容（シラバス）→ P. 190 ～ P. 241									
ENG121	基礎英語スキルズ （生活の英語）	2					◎	1・2	D.Heath	[人]35名						◎										
ENG122	基礎英語スキルズ （ライティング）	2					◎	◎	1・2	（春）石原 （秋）平野	[人]35名					◎										
ENG123	基礎英語スキルズ （リーディング）	2					◎	◎	1・2	（春）松岡 （秋）石原	[人]各60名					◎										
ENG120	基礎英語スキルズ （文法・語彙）	2					◎		1・2	松岡	[人]60名					◎										
ENG155	標準英語スキルズ （旅行の英語）	2						◎	1・2	K.Williams	[人]35名					◎	○									
ENG150	標準英語スキルズ （職場の英語）	2					◎		1・2	M.Lupas	[人]35名					◎										
ENG160	標準英語スキルズ （メディアの英語）	2						◎	1・2	J.Hirai	[人]60名					◎	○									
ENG152	標準英語スキルズ （文法・語彙）	2					◎	◎	1・2	（春）石原 （秋）青田	[人]各60名					◎										
ENG153	標準英語スキルズ （ライティング）	2					◎	◎	1・2	（春）G.Stewart （秋）K.Williams	[人]各35名					◎										
ENG151	標準英語スキルズ （リーディング）	2					◎	◎	1・2	（春）J.Hirai （秋）石原	[人]各60名					◎										
ENG159	標準英語スキルズ （パブリックスピーキング）	2					◎		1・2	M.Trazi Williams	[人]35名					◎										
ENG158	標準英語スキルズ （ディスカッション）	2					◎		1・2	M.Nepomuceno	[人]35名					◎										
ENG156	標準英語スキルズ （アカデミックリスニング）	2						◎	1・2	M.Lupas	[人]60名					◎										

ナンバ リング	授業科目名	単位			開講期・ 授業回数		履修 年次	担当者	備考	DPとの関連性						SL 関連 度	
		必修	選択	選択	春 学期	秋 学期				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
ENG161	標準英語スキルズ (編入対策)		2		◎		1・2	柳田	[人]35名				◎				
ENG157	標準英語スキルズ (TOEIC実践演習講座)		2		●		2	柳田	[人]35名				◎	○			
ENG220	上級英語スキルズ (ライティング)		2			◎	1・2	M. Lupas	[人]35名				◎				
ENG221	上級英語スキルズ (ディベート)		2			◎	1・2	R. Burton	[人]35名				◎				
ENG223	上級英語スキルズ (学術論文作法)		2		◎		1・2	G. Freddes	[人]35名				◎				
ENG224	上級英語スキルズ (多読速読)		2		◎		1・2	M. Andrade	[人]60名				◎				
ENG225	上級英語スキルズ (編入対策)		2		◎		1・2	平野	[人]35名				◎				
ENG222	上級英語スキルズ (TOEIC実践演習講座)		2		●		2	R. Burton	[人]35名				◎	○			
英語選択科目																	VI. 講義内容 (シラバス) → P. 242 ～ P. 245
ENG000	英語ファンダメン タルズ			0		○	1	狩野	履修対象者は英語Ⅰ 個別シラバスを参照				◎				
教養必修科目																	VI. 講義内容 (シラバス) → P. 246 ～ P. 261
SCH100	人間学Ⅰ		2			○	1	丹木、小林、岩崎、 浅野、袴田、田村、 W. Nampet	・クラス指定 ・P. 61(8)の履修上の 注意参照 ・人間学Ⅰ(S)のみ ()付き	◎	○	○		○	○	B	
教養選択科目																	VI. 講義内容 (シラバス) → P. 262 ～ P. 311
SCH101	人間学Ⅱ			2		○	1・2	小林、田村、 W. Nampet	・クラス指定 ・P. 61(8)の履修上の 注意参照 ・人間学Ⅱ(S)のみ ()付き	○	◎	○		○	○	B	
HST200	歴史学			4		◎	1・2	森下			○	◎			○	B	
PHL200	哲学			4	◎	◎	1・2	丹木		○	○	◎			○		
PHL202	女性と哲学			4		◎	1・2	浅野		○	○	◎			○	B	
REL200	宗教学			4	◎	◎	1・2	小林		○	○	◎				B	
MUS200	音楽			4		◎	1・2	北村				◎		○			
SOC200	社会学			4	◎	◎	1・2	栃内			○	◎			○	B	
LAW210	日本国憲法			4	◎		1・2	萩原			○	◎			○	B	
LAW200	法学			4		◎	1・2	萩原			○	◎					
EDU200	教育学			4	◎	◎	1・2	(春) 栗原 (秋) 杉村			○	◎		○	○	B	
ECN200	経済学			4	◎		1・2	白瀬			○	◎				B	
BUS200	経営学			4		◎	1・2	白瀬			○	◎					
SWF200	社会福祉入門			4		◎	1・2	栃本・寺田		○	○	◎			○	B	
JRN201	マスメディア論			4	◎	◎	1・2	沈			○	◎			○	B	

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数	履修年次	担当者	備考	DPとの関連性						SL関連度
		必修	選択	選択					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
COM101	基礎コンピューター演習			2	○ ○	1・2	(春) 森本 (秋) 津垣	[人]各36名			◎				
MTH200	数学			4	◎	1・2	津垣				◎				
PSY200	心理学			4	◎	1・2	森崎				◎		○		
PED100	体育理論 (ウェルネスと身体)			2	○ ○	1・2	木戸		○		◎			○	
PED110	体育 (球技1)			1	○ ○	1・2	木戸	[人]各36名			◎				
PED111	体育 (球技2)			1	○ ○	1・2	原川	[人]各36名			◎				
PED112	体育 (体操)			1	○ ○	1・2	原川	[人]各36名			◎				
基礎選択科目 (異文化理解コース)								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容 (シラバス) → P. 312 ~ P. 315							
REL210	キリスト教文化入門			4	◎	1・2	丹木 (輪講)		○	○	○		◎		B
IDS210	異文化間コミュニケーション			4	◎	1・2	C. Oliver	言語研究コースにも算入可		○	○	○	◎	○	B
基礎選択科目 (英米文学研究コース)								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容 (シラバス) → P. 316 ~ P. 319							
LIT201	英文学概論			4	◎ ◎	1・2	(春) 飯田 (秋) 平野				◎			○	
基礎選択科目 (言語研究コース)								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容 (シラバス) → P. 320 ~ P. 323							
LNG200	言語学概論			4	◎ ◎	1・2	(春) 神谷 (秋) 柳田			○	◎	○	○		B
基礎選択科目 (言語教育コース)								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容 (シラバス) → P. 324 ~ P. 327							
EDU205	児童英語教育概説			4	◎	1・2	狩野			○	○	◎	○		A
JPN210	日本語教育概論			4	●	1・2	宮崎			○	○	○		◎	A
基礎選択科目								VI. 講義内容 (シラバス) → P. 328 ~ P. 351							
GMN101	ドイツ語 I			2	◎ ◎	1・2	工藤	[人]各35名			○ ◎				
GMN102	ドイツ語 II			2	◎	1・2	工藤	[人]35名、ドイツ語 I 既修者か、それに相当する者			○ ◎				
FRN101	フランス語 I			2	◎ ◎	1・2	谷口	[人]各35名			○ ◎				
FRN102	フランス語 II			2	◎	1・2	谷口	[人]35名、フランス語 I 既修者か、それに相当する者			○ ◎				
SPN101	スペイン語 I			2	◎ ◎	1・2	山本 浩史	[人]各35名			○ ◎				
SPN102	スペイン語 II			2	◎	1・2	山本 浩史	[人]35名、スペイン語 I 既修者か、それに相当する者			○ ◎				
CHN101	中国語 I			2	◎ ◎	1・2	廣重	[人]各35名			○ ◎				
CHN102	中国語 II			2	◎	1・2	廣重	[人]35名、中国語 I 既修者か、それに相当する者			○ ◎				
JPN250	日本語表現法			4	◎ ◎	1・2	河北	[人]各35名		○	○	◎			B
SEF200	キャリアプランニング			2	○	1・2	岩崎 (輪講)	同窓会寄附講座	○ ◎						B

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数	履修年次	担当者	備考	DPとの関連性						SL関連度
		必修	選択	選択					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
ENG250	留学準備(イギリス)			2	◎	1・2	岩崎	夏の短期語学講座申込者のみ					◎	○	B
ENG251	留学準備(オーストラリア)			2	◎	1・2	Thomas	春の短期語学講座申込者のみ					◎	○	B
専門必修科目															
VI. 講義内容(シラバス) → P. 352 ~ P. 435															
SES100	基礎ゼミナール	2			○	1	平野、宮崎、飯田、杉村、小林、岩崎			○		◎			B
SES150	プレ・ゼミナール(永野)	2				○	1	永野	原則として2年次に履修するゼミⅠ・Ⅱ担当教員と同一であること。但し、教員のサバティカルにより同一教員が履修できない場合がある。詳細は6月のゼミナール説明会で説明。			◎	○	○	B
SES150	プレ・ゼミナール(平野)	2				○	1	平野			○		◎	○	
SES150	プレ・ゼミナール(近藤)	2					1	2016年度休講		○	○	○	○	◎	B
SES150	プレ・ゼミナール(丹木)	2				○	1	丹木		○	○	◎		○	
SES150	プレ・ゼミナール(森下)	2				○	1	森下			○	◎			
SES150	プレ・ゼミナール(宮崎)	2				○	1	宮崎			○	○	○		◎
SES150	プレ・ゼミナール(飯田)	2					1	2016年度休講			○	◎		○	B
SES150	プレ・ゼミナール(神谷)	2				○	1	神谷				◎	○	○	○
SES150	プレ・ゼミナール(Gould)	2				○	1	T. Gould			○	◎	○	○	○
SES150	プレ・ゼミナール(Oliver)	2				○	1	C. Oliver				○	○	○	◎
SES150	プレ・ゼミナール(杉村)	2				○	1	杉村			○	○	○	○	◎
SES150	プレ・ゼミナール(狩野)	2				○	1	狩野			○	◎	○	○	○
SES150	プレ・ゼミナール(小林)	2				○	1	小林		◎	○	○		○	○
SES150	プレ・ゼミナール(岩崎)	2				○	1	岩崎		○	◎		○		○
SES150	プレ・ゼミナール(Thomas)	2				○	1	Thomas		○	○	○	○	○	◎
SES200	ゼミナールⅠ(永野)	2			○		2	永野	原則として、ゼミⅠとゼミⅡは同一教員の担当科目を履修。			◎	○	○	
SES200	ゼミナールⅠ(平野)	2			○		2	平野			○	◎	○	○	B
SES200	ゼミナールⅠ(近藤)	2			○		2	近藤		○	○	○	○	◎	B
SES200	ゼミナールⅠ(丹木)	2			○		2	丹木		○	○	◎		○	B
SES200	ゼミナールⅠ(森下)	2					2	2016年度休講			○	◎			
SES200	ゼミナールⅠ(宮崎)	2			○		2	宮崎			○	○			◎
SES200	ゼミナールⅠ(飯田)	2			○		2	飯田			○	◎		○	
SES200	ゼミナールⅠ(神谷)	2			○		2	神谷				◎	○	○	
SES200	ゼミナールⅠ(Gould)	2			○		2	T. Gould			○	◎	○	○	○
SES200	ゼミナールⅠ(Oliver)	2			○		2	C. Oliver				○	○	○	◎
SES200	ゼミナールⅠ(杉村)	2			○		2	杉村			○	○	○	○	◎

ナンバ リング	授業科目名	単位			開講期・ 授業回数		履 修 年 次	担 当 者	備 考	DPとの関連性						SL 関 連 度	
		必 修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
SES200	ゼミナールⅠ (狩野)	2			○		2	狩野	原則として、ゼミⅠ とゼミⅡは同一教員 の担当科目を履修。		○	◎	○	○	○	B	
SES200	ゼミナールⅠ (小林)	2			○		2	小林		○				◎			B
SES200	ゼミナールⅠ (岩崎)	2			○		2	岩崎		○	◎		○			○	B
SES200	ゼミナールⅠ (Thomas)	2			○		2	Thomas		◎	○		○			○	
SES300	ゼミナールⅡ (永野)	2				○	2	永野				◎	○	○			
SES300	ゼミナールⅡ (平野)	2				○	2	平野				○	◎	○	○		
SES300	ゼミナールⅡ (近藤)	2				○	2	近藤		○	○	○	○	○	◎		B
SES300	ゼミナールⅡ (丹木)	2				○	2	丹木		○	○	◎			○		B
SES300	ゼミナールⅡ (森下)	2					2	2016年度休講				○	◎				
SES300	ゼミナールⅡ (宮崎)	2				○	2	宮崎				○	○			◎	B
SES300	ゼミナールⅡ (飯田)	2				○	2	飯田				○	◎		○		B
SES300	ゼミナールⅡ (神谷)	2				○	2	神谷					◎	○	○		B
SES300	ゼミナールⅡ (Gould)	2				○	2	T. Gould				○	◎	○	○	○	
SES300	ゼミナールⅡ (Oliver)	2				○	2	C. Oliver					○	○	○	◎	B
SES300	ゼミナールⅡ (杉村)	2				○	2	杉村				○	○	○	○	◎	B
SES300	ゼミナールⅡ (狩野)	2				○	2	狩野				○	◎	○	○	○	B
SES300	ゼミナールⅡ (小林)	2				○	2	小林		○	○	◎					B
SES300	ゼミナールⅡ (岩崎)	2				○	2	岩崎		○	◎		○			○	
SES300	ゼミナールⅡ (Thomas)	2				○	2	Thomas		◎	○		○			○	B
専門選択科目（異文化理解コース）																	
VI. 講義内容（シラバス）→ P. 436 ～ P. 455																	
HST310	東洋研究			4	◎		1・2	玉置				◎				B	
HST302	西洋研究			4		◎	1・2	森下	隔年開講		○	◎		○		B	
JPN311	日本文化			4			1・2	2016年度休講				◎		○		B	
HST301	英米史			4			1・2	2016年度休講	隔年開講			◎				B	
HST300	比較社会史			4		◎	1・2	森下			○	◎			○	B	
INT301	国際関係論			4	◎		1・2	岡田			○	◎			○	B	
ANT200	文化人類学			4		◎	1・2	C. Oliver			○	◎	○	○		A	
ART200	現代美術			4		◎	1・2	G. Freddes				◎		○			
EDU302	比較・国際教育学			4	◎		1・2	杉村	言語教育コースにも算入可		○	◎		○	○	B	
EDU321	社会正義のグロー バリテラシー			4		◎	1・2	M. Andrade	隔年開講 注1			◎				A	

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数	履修年次	担当者	備考	DPとの関連性						SL関連度
		必修	選択	選択					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
EDU320	言語とリテラシー教育			4		1・2	2016年度休講	隔年開講 注1 言語研究コースにも算入可		○	◎	○	○		
POL301	比較政治制度論			4		1・2	2016年度休講			○	◎		○	○	
PHL210	倫理学			4	◎	1・2	丹木			○	◎		○		B
SOC301	平和と開発			4	◎	1・2	Thomas		○	○	◎	○			B
専門選択科目（英米文学研究コース）															
								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 456 ～ P. 463							
LIT323	イギリスの文化と文学			4	◎	1・2	山本 浩						◎		
LIT310	英詩研究			4		1・2	2016年度休講	隔年開講			◎		○		
LIT320	演劇研究			4		1・2	飯田	隔年開講			◎		○		
LIT321	小説研究			4		1・2	2016年度休講	隔年開講		○	◎	○	○	○	
LIT301	アメリカ文学史			4		1・2	2016年度休講			○	◎	○	○	○	
LIT322	映画と文学			4		1・2	2016年度休講			○	◎	○	○	○	
LIT324	キリスト教と文学			4		1・2	山本 浩		○		◎	○			B
ENG350	翻訳演習			4		1・2	永野				◎	○	○	○	
専門選択科目（言語研究コース）															
								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 464 ～ P. 471							
LNG310	社会言語学			4		1・2	神谷			○	◎	○	○	○	A
LNG305	音声学			4		1・2	担当者未定	言語教育コースにも算入可			◎	○			B
LNG330	日本語学			4	◎	1・2	宮崎	言語教育コースにも算入可		○	◎	○		○	A
LNG302	語用論			4		1・2	2016年度休講				◎	○	○		
ENG360	英語史			4		1・2	山本 浩	英米文学研究コースにも算入可		○	◎	○		○	B
ENG300	通訳演習			4		1・2	2016年度休講			○	◎	○		○	
専門選択科目（言語教育コース）															
								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 472 ～ P. 487							
LNG320	バイリンガル教育			4		1・2	宮崎	言語研究コースにも算入可		○	◎			○	B
EDU310	初等教育			4	◎	1・2	杉村				◎		○	○	B
PSY301	発達心理学			4		1・2	森崎				◎				B
LNG325	第二言語習得			4		1・2	T. Gould	言語研究コースにも算入可			◎	○			A
EDU300	児童英語教育演習A			4	●	2	狩野	児童英語教育概説、児童英語指導者養成講座、第二言語習得のいずれかの単位を修得済であることが履修の条件		○	◎	○	○		A
EDU301	児童英語教育演習B			4	●	1・2	狩野			○	◎	○	○		A
EDU206	児童英語指導者養成講座			4		1・2	杉村			○	◎	○	○		A

注1 専門科目4単位として算入する方法と英語選択必修科目4単位として算入する方法があります P. 48参照

ナンバ リング	授業科目名	単位			開講期・ 授業回数		履 修 年 次	担 当 者	備 考	DPとの関連性						SL 関 連 度
		必 修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
JPN300	日本語教育演習			4	●		2	宮崎	日本語教育概論の単位を修得済であることが履修の条件			○	○		◎	A
専門選択科目（その他）																
SES399	インデペンデント・スタディ			2			1・2	担当教員	詳細はP. 64参照	テーマによる						
ENG260	海外短期語学講座			2			1・2	短期留学制度	詳細はP. 47参照		○		◎		○	B
GCR200	3大学合同ペルースタディツアー「往還する南米日系人」			2			1・2	宮崎	詳細はP. 64参照		◎		○		○	B

16. シラバス各項目について

科目名	①	担当教員	②
開講期	③	開講時限	④
分類	⑦	単位	⑧
キーワード	⑪	研究室	⑤
授業の概要	⑫	標準受講年次	⑨
達成目標 および 到達目標	⑬	連絡先	⑩
評価方法 および 評価基準	⑭		

授業計画		
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法
⑮		

テキスト	⑯
参考書	⑰
履修条件、 前提科目	⑱
その他 特記事項	⑲

主な項目の説明について、以下のとおりとなります。

① 科目名	科目名称が記されています。また、アルファベット3文字+3桁の半角数字で表しているナンバリングはその科目の分野、レベルを表しています。ナンバリングの詳細についてはP.59を参照してください。
② 担当教員	当該科目を担当する教員名が記されています。
③ 開講期	開講する学期が記されています。
④ 開講時限	開講する曜日時限が記されています。
⑤ 研究室	教員の研究室が記されています。
⑥ オフィスアワー	質問、相談の時間として設けられている時間が記されています。
⑦ 分類	当該科目の区分が記されています。
⑧ 単位	当該科目の単位数が記されています。
⑨ 標準受講年次	原則として受講可能な年次が記されています。
⑩ 連絡先	担当教員の連絡先が記されています。
⑪ キーワード	この授業で扱う主なテーマやトピックが記されています。

⑫ 授業の概要
当該授業の概要、学修活動の内容、特徴が記されています。
⑬ 達成目標および到達目標
達成目標 なぜこの科目を学ぶのかという目的、教育的価値が記されています。
到達目標 この科目を履修することで、学生がどのようなことを学び、どのようなことができるようになるかが具体的に記されています。ここで書かれる目標は、評価基準と関連しています。
⑭ 評価方法および評価基準
評価方法 評価に用いる評価項目とその比率が記されています。
評価基準 各評価項目について、どのような基準や観点で評価を行うかが記されています。
⑮ 授業計画
各授業における授業計画が記されています。
テーマおよび学修内容 各回の授業のテーマと具体的な学修内容が記されています。
運営方法、教育手法 各回の授業の主な運営方法や教育手法、学修活動が記されています。
準備学修・復習 授業外で行う必要のある準備学修、復習の内容と範囲が記されています。
⑯ テキスト
主に授業で使用する教科書が記されています。
⑰ 参考書
科目テーマの理解を補助し、発展的な自己学修につなげるために是非読んでいただきたい専門書等が紹介されています。
⑱ 履修条件、前提科目
この科目を履修するにあたっての条件、または科目を履修する前に単位を修得しなければならない科目がある場合は、その科目が記されています。
⑲ その他特記事項
上記項目以外の特記事項が記されています。